

阪神・淡路大震災25年、兵庫県こころのケアセンター開設15周年記念 こころのケア国際シンポジウム「災害とレジリエンス」を開催

兵庫県と公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構は実行委員会を組織し、阪神・淡路大震災25年及び兵庫県こころのケアセンター開設15周年の節目にあたり、「災害とレジリエンス」をテーマとして、こころのケア国際シンポジウムを開催しました。

- 1 日時： 令和元年11月7日（木）13:00～17:45
- 2 場所： 神戸ポートピアホテル
- 3 参加者数： 災害・保健・医療・福祉関係者や自治体職員など約240人
- 4 内容：

最初に加藤寛センター長が当センター15年の活動を振り返り、この間、内外の震災、事故に対し現地に出向き支援を行ってきたが、真実は現場にあるということをもつて体験してきたと報告した。

基調講演では、まず、八木淳子・岩手医科大学神経精神科学講座講師／いわてこどもケアセンター副センター長から、東日本大震災後に取り組んできた臨床と研究の両面から、被災した子どもたちの心の問題にどう関わってきたか、また、コホート調査からの事例も踏まえ、トラウマインフォームドケアの気持ちをもって臨むことや長期的な見守りや適切な介入が重要であるとの報告があった。

続いて、事件、事故後の心のケアの代名詞となった「サイコロジカル・ファーストエイド」や「サイコロジカル・リカバリースキル」実施の手引きの開発者の一人である、アメリカ国立PTSDセンターのパトリア・ワトソン教育専門官から、災害精神衛生プログラムと介入の経験則から学んだ教訓について、また、災害救援者などの初期対応者とその家族を支援するための考える枠組の紹介、そして、それは何も特別で専門的なものではなく、一般の人でも適用できるものでもあるとの報告があった。

パネルディスカッションの第1部として、まず、インドネシアから、ジャカルタ シャリーフ・ヒダヤトゥッラー州立イスラム大学精神保健看護学部のエニ・ヌライニ・アグスティニ講師から、インドネシアで発生したロンボク島地震やスンダ海峡津波の被害に対応した現地での心理社会的支援活動の紹介があり、横のつながりや地方自治体が災害後の精神保健上の問題に意識を向けることが重要であるとの報告があった。

次に、福島県立医科大学医学部災害こころの医学講座の前田正治教授から、東日本大震災で起こった原発事故の被災地福島では、8年半が経った現在でも未だなお厳しい状況が継続していること、さらに避難住民においてもスティグマに晒される等、種々の問題が生じており、アウトリーチ・サービスの提供で一定の効果は上がっているものの、今後政府や自治体

による長期的な支援が不可欠であるとの報告があった。

パネルディスカッションの第2部では、加藤センター長を座長として、各講師からの講演内容を踏まえ、持続可能で発展的な「こころのケア」のあり方について、演者全員で様々な意見が交わされた。

阪神・淡路大震災では創造的復興を標榜したが、福島では現実問題難しい状況にある。スティグマを如何にして減らすか、ソーシャルキャピタル、地域の力が大切である。

大規模災害においては、第一義的な支援者、すなわち消防、自衛隊、警察等の支援者支援が重要となる。それには組織の中のリーダーの役割がポイント。スタッフに対して感謝の念を伝えること、部下へのフォローで組織員のモチベーションが保てる。

被害を受けた方々への言葉の使い方が難しい。言葉の定義はコミュニティが名づけるのがいいのだろう。例えば「こころのケア」という言葉が分かりにくいという意見もあるが、今では定着しているのではないかなどの議論で、シンポジウムは閉会した。

【プログラム】

- ・主催者挨拶：金澤和夫（兵庫県副知事）、五百旗頭真（当機構理事長）
- ・報告：「兵庫県こころのケアセンター15年の活動」 加藤寛（兵庫県こころのケアセンター長）
- ・基調講演1：「東日本大震災後の子どものこころのケア～8年間の診療と研究から見えること～」
八木淳子（岩手医科大学神経精神科学講座講師／いわてこどもケアセンター副センター長）
- ・基調講演2：「アメリカの災害後の心理社会支援：教訓、最近の動向、および災害救援者への支援」
パトリア・ワトソン（アメリカ国立PTSDセンター教育専門官）
- ・パネラー報告1：「インドネシアでの被災者の心のケアについて：心理支援—災害精神保健」
エニ・ヌライニ・アグスティニ（インドネシアジャカルタ シャリーフ・ヒダヤトゥッラー州立イスラム大学
精神保健看護学部講師）
- ・パネラー報告2：「福島原発事故が与えたメンタルヘルスへの影響：どのように乗り越えるべきか？」
前田正治（福島県立医科大学医学部災害こころの医学講座 教授）
- ・パネルディスカッション（座長： 加藤寛センター長）
パネラー：八木淳子、パトリア・ワトソン、エニ・ヌライニ・アグスティニ、前田正治